

■伊東ハンニ(松尾直直)

いとうはんんに

子規句歌革新1898＝

“昭和の天一坊”。青年作家叶わず、恐慌のなか突如株式相場に登場し大金を掴んだ。

三重県鈴鹿郡の裕福な大村加太で、米穀商松尾伝吉・ていの三男に生まれる。

日露戦争始・1904＝6歳：加太尋常小学校に入学し、

日露戦争終・1905＝7歳：級長にまでなるも、

韓国反日暴動1907＝9歳：

アヲヲ創刊・1908＝10歳：父が株取引に失敗して多額の借金を抱えることになり、父や兄と別れ、名古屋に転居、

伊藤博文暗殺1909＝11歳：地元の小学校に転入し、級長になるも周囲となじめず、まもなく辞め、以後、兄の通信教材などで独習、また村上浪六の大衆小説などで文章力や人心収攬術を身につけて行く。この年のハレー彗星騒動があり、

大逆事件判決1911＝13歳：この年出版された浪六の「豊太閤」を貪るように読んで、出世欲の塊となり、

明治天皇没・1912＝14歳：[実業之日本]の「英雄観」特集で金こそ全てという幻影を抱くようになる。夜空にウォルフ彗星を見つけてまもなく天皇崩御するや、時代の節目のチャンスとばかり、名古屋から単身徒歩でほとんど乞食同然の姿で上京、老車夫が提供してくれた場所で野宿し、朝目を覚ますと父を破滅させた兜町の株式取引所の前だったことから運命も感じ、新聞配達に職を得て凌ぐうち、

大正政変・1913＝15歳：大正政変に興奮、郷里の大先輩尾崎行雄に憧れ、勉学の時間を得るべく金を貯えるのに専念するうち、

第一次大戦始1914＝16歳：第一次大戦が勃発、ふと目にしたチラシで、帝大での無料公開倫理講演会の講師に予言ブームのなかその的確さで圧倒していた隈本有尚がいるのを知って出席、彼が自信を持ってドイツ敗戦を予言するのに興奮し、強引に話しかけて研究会出席の許しを得、占星術や統計学など歯が立たないものの、何とか株価予測の方法を知ろうと続ける一方、懸賞論文などに次々応募などするうち、

21ヶ条要求・1915＝17歳：無理がたたって、借金返済できなくなり、大阪へ夜逃げ、新聞社の植字工として働くうち、記者になろうと、募集欄で見つけた(京津日報)の通信員経て、[名古屋新聞]の三重県松阪の通信員となって帰郷するも、

民本主義・1916＝18歳：トラブル起こして退社し、再び上京し、隈本を訪ね、代議士田川大吉郎を紹介して貰うも書生の空き無く家の留守番役となる。病臥する田川夫人を元気づけようと面白おかしく話をするうち気に入られ、

ロシア革命・1917＝19歳：早くも、脚色過多な自伝「苦学十年」を出版することになり、尾崎行雄の序文まで得る。有頂天になって金を使い過ぎ再び帰郷、立ち直っていた父から金を貰って再び上京、隈本をたぶらかせて、立て続けにしかも多岐にわたる5冊の本を出版し、青年作家として華々しくデビューするが、結局売れず、学歴の壁を思い知らされただけで、1年で名古屋に帰るハメになる。

ベトナム条約・1919＝21歳：長兄が金の使いこみで自殺、弟と姉も行方不明となって、名古屋に居られなくなり、

原敬首相暗殺1921＝23歳：

水平社結成・1922＝24歳：故郷に近い松阪に移って、ペーパーカンパニー(紀勢鉄道土地株式会社)を設立しすぐに売却、その金で父らと名古屋に三菱の代理店(中一商会)を起こすも、売却先から詐欺罪で告訴され収監され、

護憲三派決勝1924＝26歳：さらに次兄が賭博で捕まり、妹は男に騙されて酌婦となり後自殺などするうち、

治安維持法・1925＝27歳：懲役10か月の判決。母も賭博で罰金刑となった上、子らのもたらず心労から発狂してしまう。

円本時代始・1926＝28歳：控訴し、病気で保釈されるや逃亡し、再び上京、執行猶予は5年。伊東阪二と改名した上、またも隈本を頼るも、既に占星術など止めて、聞いたこともないシュタイナーの研究会になっていたが、再び猛勉強。

共産党事件・1928＝30歳：普選後初の国会で尾崎行雄がシュタイナーの論に基づき三大国難警告演説。

満州事変・1931＝33歳：*時効を迎え、自由の身になるや、隈本がロンドンの金融混乱を予言したのを受けて、高利を得るとともに、巨利あげた財閥をからかうように多額の金を軍部に寄付、新聞記者が押し掛け、一躍時の人になる。

五一五事件・1932＝34歳：*大金を出資して、雑誌(日本国民)を創刊。[朝日新聞]さらに[ニューヨークタイムズ]まで快挙と特報。[日本国民]には著名作家多数を動員し派手に宣伝、日比谷公会堂・国技館などで大演説を開催し、自らも壇上から獅子吼、学歴社会への復讐を決意、名古屋に凱旋、訪ねてきた大宅壮一と意気投合、

国際連盟脱退1933＝35歳：誌上で学者らを次々攻撃するが、[万朝報]に続いて帝国興信所からも過去を暴かれ、隈本にも見放されたため、徳富蘇峰による名門(国民新聞)を買収して社長に就任して反撃、ファシズムでもコミニズムでもない第三の道を標榜し、日本国民大演説会を開催するなどして絶頂に達するが、相場で儲けるからと広告を取らず来たため、米相場で失敗して致命的なダメージを受け、わずか半年で退場してしまうと、

帝人疑獄事件1934＝36歳：*大陸に渡り、“男装の麗人”川島芳子を伴って帰国、以後、芳子と同棲しながら、シュタイナーの論を実現しようと“新東洋主義”をブチ上げ、派手な新聞広告をし、自ら作詞したテーマソングを藤山一郎に歌わせるなど、演説会はどこも超満員、評伝「東洋の花伊東ハンニ」まで刊行され、まさにポップスターになり、

芥川直木賞始1935＝37歳：*台風被害のなか、大阪中之島公会堂で新東洋主義大会を強行するも満員、続けて天王寺音楽堂でも空前の聴衆を集め、さらに生駒山、和歌山大会とまるで宗教大会のようになって、当局から危険分子と看做され、突然、大阪府警の特高に逮捕され収監、一夜にして衰弱し、まるで別人に変貌、

日中戦争始・1937＝39歳：結核理由に拘留停止となり、大阪で療養しながら予審に出廷、

第二次大戦始1939＝41歳：公判が開かれる直前、替え玉使って逃走するもすぐに見つかって拘留停止も取り消しになるも、

大政翼賛会・1940＝42歳：拘禁性精神病で保釈され、

日米開戦・1941＝43歳：裁判所の許可得て、「獄中記」を出版、

創価学会検挙1943＝45歳：この年、隈本が死去。巨額詐欺容疑で逮捕される。神経痛ですぐ保釈されるも、再び拘束、

敗戦・1945＝47歳：敗戦で出所、軍需物資隠匿摘発の政府方針に対応し、

新憲法公布・1946＝48歳：革命委員会を旗揚げして各地で演説会開催、成果を上げてかなりの報酬を得、豪華な生活を送るも、

新憲法施行・1947＝49歳：またも巨額詐欺の疑いで逮捕されたことから、“昭和の大詐欺師”の異名を得、

極東裁判決・1948＝50歳：懲役7年の実刑判決、

独立回復・1951＝53歳：

メデ-事件・1952＝54歳：

TV放送始・1953＝55歳：収監中、{特集雑誌オール実話}の「インチキ師ペテン師特集」に別人ながら「昭和天一坊会見記」掲載され、

自衛隊発足・1954＝56歳：出所とともに「昭和天一坊」と呼ばれ伝説化。

安保闘争・1960＝62歳：

タイタイ病始・1961＝63歳：

美濃部都知事1967＝69歳：以後、知人宅に寄寓し、生活のほとんどは病院通い、この間時効は中断されていたが、居所知られて裁判所から呼び出されるが、弁護士を訪ね、医師の診断書つけた出廷拒否通知を出すことにした帰り道、脳出血を起こして倒れ、半身不随でやせ細った姿で病院に運ばれるも、新聞でかつてのパートナー大宅壮一の幸せな写真を見ていたたまれなくなり、すぐに退院。裁判は再び流れ、時効も中断。久しぶりに新聞や週刊誌記事になるも、以後消息不明になる。

3年後には大宅壮一が死去するが、その頃には没していたと思われる。

(没年不明)

河西善治「昭和の天一坊伊東ハンニ伝」、